

Photo Column

フォトコラム・自然観察

雪は南国で

泉原
猛



写真は1984年2月3日、松山市正円寺にて

「シロハラ」

腹部は中央が白いことからこの名がある。南予では「しなひ（シナイ）」といい、江戸時代の呼び名が残っている。十一月頃渡来し、本州中部以南の低山や平地で越冬する。比較的暗い林などの地上で、主に昆虫類を食べる。

「カサツ、コソツ」とかすかな音をたてながら落ち葉をひっくり返している。

わが家の庭では、毎冬同じ個体と思われるものが二、三年続けてやって来て、その後二、三年見えなくなり、また二、三年渡来、という状態が何度か見られた。彼らの寿命や世代交替、遠い旅路のことなどがしのばれた。

松山平野に珍しく十数センチの積雪があった日、とっておきの干し柿を「接待」した図である。繁殖地のアムール川下流域やウスリー地方を飛び立つときは雪の来る前であろうから、雪は南国のもの、と彼らは思っているのではないだろうか。

いずはら・たけし 一九三五年東宇和郡城川町生まれ。環境省環境カウンセラー、日本野鳥の会愛媛県支部副支部長、「原点」同人。鳥類に代表される野生生物を見ていて気付いたこと―必要最小限のもので暮らしている彼らに比べ、際限なく「取り分」を拡張したがる人類は、互いに苦しみ合いをしているだけではないのか。

文化愛媛 No.48 ￥500(税込)
発行/平成14年(2002)3月1日
発行所/愛媛県松山市道後町2-5-1
財団法人愛媛県文化振興財団